

## 明海大学外国語学部日本語学科

事業名	留学生と地域住民による国際理解教育プログラム						
実施期間	2015年12月1日、2015年12月10日						
場 所	浦安市立明海小学校、ホテルエミオン						
参加者	外国人留学生	日本人学生	地域住民	スタッフ	関係者	来場者	合計
	45名	6名	16名	2名	4名	357名	430名

### <実施内容>

大学在籍中の留学生が、自身の育った地域に文化や習慣、宗教、異なる背景を持つ人々との共生の方法について紹介した。

12月1日には、小学生を対象として自国の言葉、子供の遊びや習慣についての説明を行った。留学生は小学生から日本の遊びの紹介を受けたり、初めての給食を体験するなどした。

12月10日には、大人を対象として、異なる文化、宗教、習慣を持つ人の共生の在り方を考えるために、イスラム教徒の留学生が中心となり、自身の持つ宗教や日本での生活について紹介した。



写真脚注

大学在籍中の留学生と、周辺の地域住民の皆さんとの間で、国際理解のためのイベントを開催。様々な国から来ている留学生が、日本の小学校における学習環境や生活環境に触れると併に、留学生自身が、自分の出身国の紹介をした。(写真左)。  
大人向けには、宗教や文化の違いについての理解を深めるため、イスラム教徒の一日の生活の紹介と、多文化国家の例としてインドネシアでの異なる宗教の人が暮らす様子について紹介した。(写真右)

### <参加者からのコメント>

参加者(教職員)

1年生なので、一緒に遊んでいただきました。子ども達は、とても楽しんでいました。外国の文化に触れることをきっかけに、日本のことについて考える機会を持つことができました。

森光修(日本)

近寄りやすい感じもあったが、このようなイベントで話す機会ができることで、親しくなれる。こういう交流会はいいと思う。

クウェンティンポー ドゥアンポーン さん(タイ)/KWANTHINPHU DUANGPHON  
 日本に来て、日本の子供たちとの交流をする機会はなかなかないので、貴重な体験ができました。  
 小学生たちと「日本の給食」を食べられて楽しかったです。とても感慨深い経験でした。

ペテロ シャウ (インドネシア)/ PETRUS SIAU  
 市内に住んでいる日本の方と、ゆっくり話すことができました。インドネシアではキリスト教徒もイスラム  
 教徒も、仏教徒も、お互いを大切に考えて暮らしていることを伝えることができてよかった。私たち外国  
 人が、日本人から見るとどのように見えるのかについても聞く機会となったので、よかった。

写真の脚注

No.1	小学生に迎えられて舞台から挨拶をする留学生
No.2	生まれて初めての日本での給食
No.3	発表のあいさつをする留学生(インドネシア、中国、タイ、マレーシア)
No.4	留学生が作成したレジュメの異文化クイズを解く参加者
No.5	タプーの紹介をする留学生
No.6	インドネシアの多文化共生についての説明をする留学生

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

